1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070502283
法人名	医療法人　聖心会
事業所名	グループホーム　ベル･エポック
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉南区葛原東3丁目14－50 (電　話) 093－473－5611

評価機関名	株式会社　アーバン･マトリックス　評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4－6　北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年11月20日	評価確定日	平成21年12月29日

【情報提供票より】（平成21年11月1日事業所記入）

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年11月1日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	14　人	常勤　14人，非常勤　0人，常勤換算　14．0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨耐火造り
	3階建ての2～3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	45,000円		その他の経費（月額）	（水道光熱費）15,000円
敷　　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	500　円	昼食	500　円
	夕食	500　円	おやつ	円
	または1日当たり　1,500円			

(4) 利用者の概要　（11月1日現在）

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	3	名	要介護2	7	名
要介護3	5	名	要介護4	2	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢　平均	81.4 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	久能整形外科消化器科医院／松尾病院／木本歯科クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人聖心会が運営するグループホーム「ベル･エポック」は、久能整形外科･消化器科医院に隣接する3階建ての建物の2，3階に位置している。母体医院に併設されているため、健康面で24時間の支援体制を整えており、入居者･家族の安心へとつながっている。入居者の約半数がリハビリを利用しており、機能維持や残存能力の向上に取り組み、日々の潤いのある暮らしの継続に向けての取り組みが確立されている。ホーム内ではレクリエーションや外出行事など、多様な計画を展開しており、心身の活性化への働きかけも見られる。開設6年目を迎え、少しずつ重度化が進む状況の中で、「安心とうるおいと楽しさ」をモットーに、個性を尊重し、豊かな暮らしを送っていただけるように、管理者･職員が日々サポートを行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	評価結果は職員に配布し、外部評価にて指摘された内容は改善に向けて取り組むように努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	2ユニットの自己評価は管理者がまとめて作成し、外部評価の結果に関しては職員全員で情報の共有化を図り、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	2ヶ月に1回の定期的な開催が課題となっている。行事報告や入居者の状況･消防法の改正･研修参加などが主な議題となっている。会議では、校区の情報が掲載される「ふれあい沼便り」なども配られ、地域との情報交換の場として活用されている。今後は、家族の積極的な参加とともに、定期的な開催を目標として、関係者との調整が求められる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法･運営への反映（関連項目：外部8，9）
	年1回、家族会の交流会（バーベキュー大会等）があり、家族同士や職員とのコミュニケーションを図り、何でも言っていただけるような関係づくりに取り組んでいる。また、ホームに来訪された際には、意見や要望を聴けるよう、家族とのコミュニケーションの機会を大切にしている。苦情を受けた時には、真摯な対応、迅速な対応となるよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	昨年から「地域防災協定」については話し合いを行い、ひな形もできているが、現在保留状態にある。グループホームとしての存在を、地域密着型サービスとして地域に理解していただけるように、認知症の勉強会の開催やホーム行事への地域からの参加など、今後は積極的に働きかけていくことが求められる。

2.　評価結果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容･実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員は「自分達が住みたくなるようなホームにしたい」との思いを込めて、基本理念を作成している。地域との関係性をふまえながら、「介護サービス･医療サービスの一体的な提供から生まれる『安心･うるおい･楽しさ』を真心込めて届けます。」とパンフレットにも記載し、医療をバックボーンとした豊かな暮らしの実現を理念に打ち出している。		
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングの際に理念について話し合っている。朝礼の時に職員の心がけや目標を復唱するようにしており、「仕事のプロ」を目標に、日々理念の振り返りができるように取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議には、沼校区のまちづくり協議会会長･老人連合会会長･民生児童委員が参加している。昨年から「地域防災協定」については話し合いを行い、ひな形もできているが、現在保留状態にある。グループホームとしての存在を、地域密着型サービスとして地域に理解していただけるように、認知症の勉強会の開催やホーム行事への地域からの参加など、今後は積極的に働きかけていくことが求められる。	○	地域密着型サービスとしてのグループホームの存在を、地域の方々に理解してもらえるよう、積極的な働きかけを行なって欲しい。地域行事への参加が難しい状況にある等の課題もあるが、ホーム行事への案内等、できることから「ふれあい･交流」の機会を持つことが求められる。これまでのケアの実績を活かし、地域に向けて認知症についての情報発信を行う等、今後の取り組みに期待したい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価結果を職員に配布し、指摘された内容は、改善に向けて取り組むように努めている。自己評価作成に、職員の積極的なかかわりを期待したい。		
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	沼校区まちづくり協議会会長･老人会会長･民生委員･地域包括支援センター職員等の参加により、現状としては4ヶ月に1回の開催となっている。会議の中で、地域との「防災協定締結」が予定されていたが、それぞれの担当者の変更があり、実現にはいたっていない。	○	概ね2ヶ月に1回の開催に向けて、メンバー構成の更なる多様化を働きかけながら、欠席者が発生した場合にも、議事録として報告する等の取り組みに期待したい。また家族の参加に向けての働きかけも求められる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービス相談員の月2回の来訪があり、ユニット毎に1時間程度滞在している。地域包括支援センターとの連携が主体となっており、困難事例等が発生した場合には、統括支援センターとの連携を図ることもある。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	現状として制度を活用している方はいないが、権利擁護･成年後見制度のセミナーに参加し、権利擁護に関する制度について、必要となった場合には活用に向けての支援が行えるよう、体制づくりが行なわれている。		
4．理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「ベル･エポックだより」を作成し、日々の暮らしぶりや外出の様子等を写真と共に掲載しており、外出時の楽しそうな入居者と職員の笑顔を見ることができる。金銭管理は管理台帳を用い、家族からの承認サインなどを受けている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、家族会の交流会（バーベキュー大会等）があり、家族同士や職員とのコミュニケーションを図り、何でも言っていただけるような関係づくりに取り組んでいる。また、ホームに来訪された際には、意見や要望を聴けるよう、家族とのコミュニケーションの機会を大切にしている。苦情を受けた時には、真摯な対応、迅速な対応となるよう取り組んでいる。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、やむを得ない場合には、引き継ぎ期間や職員間でのサポートにより、サービスの低下とならないよう配慮している。「便り」や家族の訪問時に報告しており、入居者への報告は、個別の状況に配慮して、伝えるようにしている。		
5．人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集･採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員につても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	募集は法人で行い、採用はホームとして管理者が面接を行い決定している。資格のある方が望ましいが、「協調性がある方、一生懸命取り組んでくれそうな方」などを希望している。資格取得を希望する職員は勤務調整などでサポートしている。外部研修は回覧できるようにしており、希望者は誰でも参加できるように取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育･啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育･啓発活動に取り組んでいる。	ミーティングや勉強会において、入居者の方々は、家族として父であり、母であることを常々話している。今年は「手紙」(認知症の方の言葉) を資料として利用し、認知症に対する理解･意識を深める取り組みを行なっている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する月刊誌や福祉新聞を購読し、意識改革を図っている。外部研修を案内し、勤務調整や参加費用等についてサポートする体制がある。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、地域包括支援センター主催の研修会に参加し、他事業所との交流を図っている。地域の数ヶ所のグループホームとは交流があり、見学なども行なっている。今後は、更に交流からネットワークへと連携を高め、地域に向けて認知症の理解を育む活動などに期待したい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いつでも見学が可能であり、体験入居は希望があれば対応している。体験入居コースとして3泊4日での料金設定があり、入居の可能性を探ることができるようになっている。また、自宅訪問や入院先への面接など、事前の交流を行い、安心して入居できるよう取り組んでいる。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に支えあうことを第一に、「生活史シート」から一人ひとりの思いを見出し、共有できる時間を大切に過ごしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1．一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今年度はセンター方式の研修に参加し、数名の方にセンター方式を採用したアセスメントを行なっており、必要な部分を抜粋して利用し、思いや意向の把握に努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	毎日のミーティングや、センター方式の「暮らしの情報」「生活史シート」を活用し、抽出された本人の思いや暮らし方の希望等が反映された介護計画が作成されている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを行っている。月1回のミーティングでは、入居者のコーヒーの好みまで話し合われている様子が記載されており、入居者の思いや意向を把握し、介護計画に反映していこうと努めている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する運営母体が医療法人であり、医療との充実した連携が、24時間体制で整備されている。個別の要望(受診･買い物等)について、臨機応変な対応が行なわれている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人･家族の希望によるかかりつけ医との関係を大切にしている。他科受診への同行支援も行っている。隣接して母体医療法人があり、定期的な往診･24時間体制での支援は、入居者･家族の安心となっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに数名の入居者のターミナルケアを行なっている。方針や家族の意向は確認しているが、新しい職員もおり、看取りの体制は十分ではないと考えている。今後は、これまでの経験を活かし、職員の意識や知識を高めながら、本人や家族の意向にそって、更に体制づくりを整えていきたいと考えている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護の目標を立て、その中に入居者への配慮が示されている。日常的には入居者の誇りやプライバシーを尊重し、職員には接し方や言葉かけなど助言や指導を行なっている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心がけている。その日のコンディション･様子をみながら、本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごしていただいている。買物なども1対1で個別に支援している。個人の意思決定を尊重し、個別性のある支援を行なっている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は病院の厨房が担当しており、各フロアで盛り付けを行なう。ホームでは、たこ焼きパーティーなどで料理を楽しむ機会も設けている。職員は同じテーブルで介助しながら、和やかに食事を楽しんでいただけるように取り組んでいる。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、2日に1回、午後からの入浴を予定しており、無理強いとならないよう、清拭や足浴などで対応する場合もあり、清潔保持に配慮している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	管理者･職員は、入居者一人ひとりの習慣･希望･有する力をふまえて、入居者の豊かな暮らしを支えるために、一人ひとりの役割･楽しみごと(洗濯物たたみ･掃除･食事の準備･後片づけ･おやつづくりなど)を支援している。得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉と伝えるようにしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望にあわせて、できる限りの外出支援を行っている。近隣の公園や庭へ、季節の花木を見に行ったり、散策を楽しんでいる。農事センター･門司港レトロ等へのドライブを楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入り口はエレベーターとなっており、外出希望時には職員が同行している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難場所の確認を行なっている。地域住民の避難場所が、法人敷地内の空き地となっており、地域との防災協定締結への働きかけが行なわれているが、実現にはいたっていない。		消防署立ち合いの避難訓練が、実施予定となっている。地域との防災協定締結が、それぞれの担当者の交代により、保留状態となっている。運営推進会議の活用を含め、積極的な働きかけが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人との連携による、献立作成及び調理となっている。ホームでは盛り付けから配膳まで行なっている。食事量を記録し、水分は1日おおむね1000mlを目安に摂取できるように支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、ﾄｲﾚ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアー事に、それぞれの雰囲気づくりが行なわれている。ソファーや椅子、和室の掘り炬燵等、それぞれがくつろげる場所が確保されている。アロマの香りが漂う、生活感のある共用空間となっている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口には、名前のプレートに写真や動物の絵が掛けられ、暖簾を飾るなど、それぞれ個性的に工夫している。仏壇や箪笥･椅子等、自宅で利用していたものが持ち込まれており、思い思いのレイアウトで部屋づくりをしている。テレビや冷蔵庫についても、希望により設置されている。安全面への配慮により、センサーマットや絨毯等、個々の状態に応じて支援している。		